

(様式5)

調査報告書

外部評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	<u>11</u>
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	<u>2</u>
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	<u>6</u>
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	<u>11</u>
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	30

訪問調査日	平成20年 9月 20日
調査実施の時間	開始 10時 00分 ~ 終了 15時 30分

訪問先事業所名 (都道府県)	グループホーム とうごう苑 (鹿児島県)
-------------------	---------------------------

評価調査員の氏名	氏名 <u>中村 朋美</u>
	氏名 <u>竹下 公子</u>
事業所側対応者	職名 <u>ホーム長 ・ 副ホーム長</u>
	氏名 <u>中間 みゆき ・ 中島 ひとみ</u> <u>ヒアリングを行った職員数 4 名</u>

<p>※記入方法</p> <ul style="list-style-type: none"> ●「取り組みの事実」欄は、ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入してください。 ●「取り組みを期待したい項目」欄は、今後、さらに工夫や改善が必要と思われる項目に○をつけてください。 <p>※項目番号について</p> <ul style="list-style-type: none"> ●外部評価項目は30項目です。 ○「外部」にある項目番号が外部評価の通し番号です。 ○「自己」にある項目番号は自己評価で該当する番号です。参考にして下さい。 <p>※用語について</p> <ul style="list-style-type: none"> ●家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含む。(他に「家族」に限定する項目がある) ●運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。 ●職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含む。 ●チーム＝一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意。 <p>関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含む。</p>
--

1. 評価結果概要表

作成日 平成20年 9月 22日

【評価実施概要】

事業所番号	鹿児島県指定 第4670201062号		
法人名	社会福祉法人 祥健会		
事業所名	グループホーム とうごう苑		
所在地	鹿児島県薩摩川内市東郷町斧渕2636番地1 (電話) 0996-21-6551		
評価機関名	NPO法人 自立支援センターかごしま 福祉サービス評価機構		
所在地	鹿児島県鹿児島市星ヶ峯4-2-6		
訪問調査日	平成20年9月20日	評価確定日	

【情報提供票より】(20年5月1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 16年 11月 12日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	16 人	常勤16人, 非常勤	人, 常勤換算16人

(2) 建物概要

建物構造	木造瓦葺平屋 造り		
	1階建ての ~ 1階部分		

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	22,000 円	その他の経費(月額)	9,000 円
敷金	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無	有 / 無
食材料費	朝食	200 円	昼食 280 円
	夕食	300 円	おやつ 83 円
	または1日当たり 円		

(4) 利用者の概要(5月1日現在)

利用者人数	18名	男性	4名	女性	14名
要介護1	6名	要介護2	4名		
要介護3	4名	要介護4	2名		
要介護5	2名	要支援2			
年齢	平均 85.9歳	最低	76歳	最高	94歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	とうごう苑診療所・医療法人松尾病院・社会福祉法人恩賜財団法人済生会川内病院・薩摩郡医師会病院・医療法人瀬口歯科医院
---------	---

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

地域の医療に永年携わってきた代表者が建てたグループホームである。地域からの信頼も厚く、入居者とも馴染みのある関係である。地域との交流、連携が積極的に図られており、地域に根ざしたホームである。木のぬくもりがあり、明るくゆったりとし、植物や装飾品、てすりの工夫など居心地よく過ごせる配慮が随所にみられる。職員は向上心が高く、「明るい笑顔で 心のこもったふれあいと その人らしさを大切に」の理念に基づいたケアを常に心がけている。各ユニット間では日々交流がなされており、互いに隣人の訪問を喜ぶ姿がみられる。また入居者が庭を自由に散歩し、職員は温かく見守るなど一人ひとりに応じたその人らしい暮らしを柔軟に支援している。

【重点項目への取組状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)
	地域住民参加の災害訓練や、職員も参加した同業者との交流など改善されている。 今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
重点項目②	評価の意義や目的を全職員で確認している。自己評価は、各ユニット毎に、全職員で取り組み、日々のケアの見直しや気づきをする機会になっている。
	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6) 会議では、ホームの現況や取り組みなどを報告している。外部評価や家族会についてなど状況に応じテーマを決め話し合っている。そこでの意見を活かし、福祉サービスの活用、災害時の地域住民との協力体制や安全確保などサービスの向上に取り組んでいる。
重点項目③	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	契約時に意見や苦情を気軽に申し出るように説明している。第三者委員を設置している。面会用紙を利用した相談苦情受付の工夫、運営推進会議など意見を表せる機会がある。家族の訪問時に意見を聞き出すよう配慮している。意見は、随時職員で話し合い質の向上に取り組んでいる。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	毎月地域のいきいきサロンを利用して交流を行っている。話し相手や行事の際のお手伝いなどの、地域のボランティアや小学生など地域住民の訪問や学生の実習を受け入れている。同一法人施設の夏祭り等の行事参加や地域のマラソン応援・災害時の地域住民の協力・近隣にある温泉の利用など、地域との交流、連携が積極的に図られている。

2. 評価結果（詳細）

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	家庭的な環境と地域住民との交流のもとで、心のふれあいを大切にその人らしく暮らせることを目指した理念を作り上げている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	引継ぎやミーティング等で理念に触れ、常に確認し職員の意識づけを図っている。職員は、明るく優しく一人ひとりの入居者を大切にしたケアを日々実践している。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	話し相手や行事の際のお手伝いなどの地域ボランティアや小学生などの地域住民の訪問や学生の実習受け入れなど、地域の住民とふれあいながら交流している。また毎月地域のいきいきサロンを利用して交流を図っている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	評価の意義や目的を全職員で確認している。自己評価は、全職員で取り組み、日々のケアの見直しや反省をしている。評価を活かし、職員で改善に向け討議し、質の向上に取り組んでいる。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議では、ホームの現況や取り組みなど報告している。外部評価や家族会についてなど状況に応じテーマを決め話し合っている。そこでの意見を活かし、福祉サービスの活用、災害時の地域住民との協力体制や安全確保など、サービスの質の向上に取り組んでいる。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市町村担当者とは、常に、相談や連携を図っている。福祉サービスなどの助言を得るなど共に質の向上に取り組んでいる。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	苑便り、モニタリング表を家族等へ毎月送付して暮らしぶりや状況の報告をしている。家族の訪問時や電話連絡で近況や健康状態など状況に応じて随時報告している。個々に応じて、行事の写真や金銭出納管理の報告もしている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	重要事項説明書への明記及び契約時の説明、第三者委員の設置をしている。面会用紙を利用した相談苦情受付の工夫、運営推進会議など意見を表せる機会を設けている。家族の訪問時に意見を聞くよう配慮している。意見は、随時職員で話し合い質の向上に取り組んでいる。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	馴染みの関係性を理解しており、法人内の異動は、必要最小限に抑えている。ユニット間での異動はあるが、日常的な連携や関係を考慮して馴染みの関係を築いている。交代の場合は、きちんと紹介し、細かい引継ぎや職員同士の連携を密にしている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	資格に応じた研修や認知症ケア・救急法など積極的に外部研修を受講している。毎月テーマを決めた内部研修も充実している。資格取得も支援しており、職員は向上心をもって働いている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	県や地域のグループホーム協議会に加入している。職員も交代で研修に参加し意見交換などしている。研修をきっかけにネットワークが更に充実しており、互いに相談や連携を図り質の向上に取り組んでいる。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居前に、自宅など訪問しホームの来訪を勧め、少しでも雰囲気馴染めるよう配慮している。本人にきちんと説明し納得してからの入居を基本としている。本人の細かい状況の把握に努め、家族と相談しながら、早く落ち着いた生活ができるよう取り組んでいる。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は、入居者一人ひとりが人生の大先輩としてかわりをしていく。得意分野で力を発揮してもらい、調理や花・野菜づくり・かごしま弁などを教わる場面づくりをして、共に支え合う関係を築いている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	職員は、日常の言動や表情などから、入居者一人ひとりの思いや意向の把握に努めている。把握した思いなどを職員で話し合いながら情報を共有している。家族からの情報も得て、表情など確認しながら、本人本位に検討するよう努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人の日常的な意向の把握、家族の訪問時や電話連絡などによる意向の確認、引継ぎや毎月のモニタリングなどを活かし、本人・家族・職員との意見を反映した介護計画を作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	3ヶ月毎の定期的な介護計画の見直しを基本としている。状況変化に伴い随時、新たな介護計画を作成している。毎日の引継ぎや個別の記録、毎月のモニタリングなどで状況を確認している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	本人・家族の意向や状況に応じて、通院支援や帰宅支援・墓参りなど特別な外出を柔軟に支援している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	基本的に内科は協力病院で受診している。入居前からのかかりつけ医や各専門医など本人・家族の希望を大切にしている。状況に応じて柔軟に支援している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	本人や家族の意向を確認し、状況に応じて随時、家族や医療機関・職員と話し合い、方針を共有している。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	ミーティングなどを利用して、誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応がないよう職員の意識向上を図り、日々実践している。個人情報の取り扱いについても周知がされ実践している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一日の大まかな生活時間はあるが、入居者一人ひとりのペースを大切にした生活ができるよう柔軟な支援をしている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	嗜好の把握をして、買い物や旬の食材の利用・ホームの畑の野菜収穫・おすそわけの野菜など、入居者からの調理方法の伝授・下ごしらえ・食事・片付けなど本人の意向や状況に応じて一連の流れを通して職員と共に食事を楽しむ支援をしている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴の習慣や希望を把握し、一人ひとりに応じた入浴をしている。近隣の温泉の利用もして楽しんでいる。職員が連携して声かけなどを工夫し無理なく入浴できるよう支援している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	入居者一人ひとりの生活歴や力を活かし、調理の下ごしらえ・洗濯物干しやたたみ・裁縫・園芸などの役割や、音楽や新聞・テレビ・トランプ・外出などの楽しみごとや気晴らしの支援をしている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	一人ひとりの意向や状況に応じて、日常的に散歩や買い物などに出かけている。毎月外出行事を計画し、ドライブや温泉・外食・遠足など楽しんでいる。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は鍵をかけないケアを実践している。入居者が外出したい意向を把握し、寄り添い、見守りを行っている。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	定期的に避難訓練を行っている。年1回は消防局・地域住民・同法人施設職員も参加した夜間通報や避難訓練を行っている。台風の時は事前の準備で水や食材確保・職員確保などを行っている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりの食事摂取量、水分摂取量を把握している。定期的に栄養士からの助言を得ている。入居者の疾病や食欲低下などは、医療機関と連携しながら、満腹感への工夫、嗜好品の活用など一人ひとりに応じた支援をしている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	木がふんだんに使われ、明るくゆったりとした家庭的な温かみがある共用空間である。植物や中庭など季節を感じ生活できる。音や光にも充分配慮している。一人ひとりが居心地よく過ごせる配慮がある。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた寝具や家具・家族の写真・位牌・鉢植え・テレビ・冷蔵庫などが各々持ち込まれている。本人が安心して過ごせる居室である。		

※  は、重点項目。

※ WAMNETに公開する際には、本様式のほか、事業所から提出された自己評価票（様式1）を添付すること。